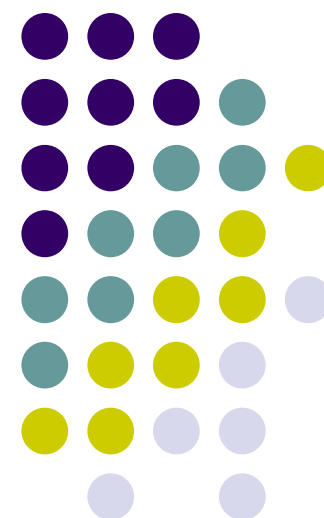


研究・イノベーション学会 国際問題分科会

2025年度9月例会(2025.9.17)

帝国と観光

「満洲」ツーリズムの近代



高 媛
(駒澤大学教授)

2025. 9. 17

九月例会

日時 令和七年九月十七日 水

テーマ 帝国と観光——「満洲」ツーリズムの近代

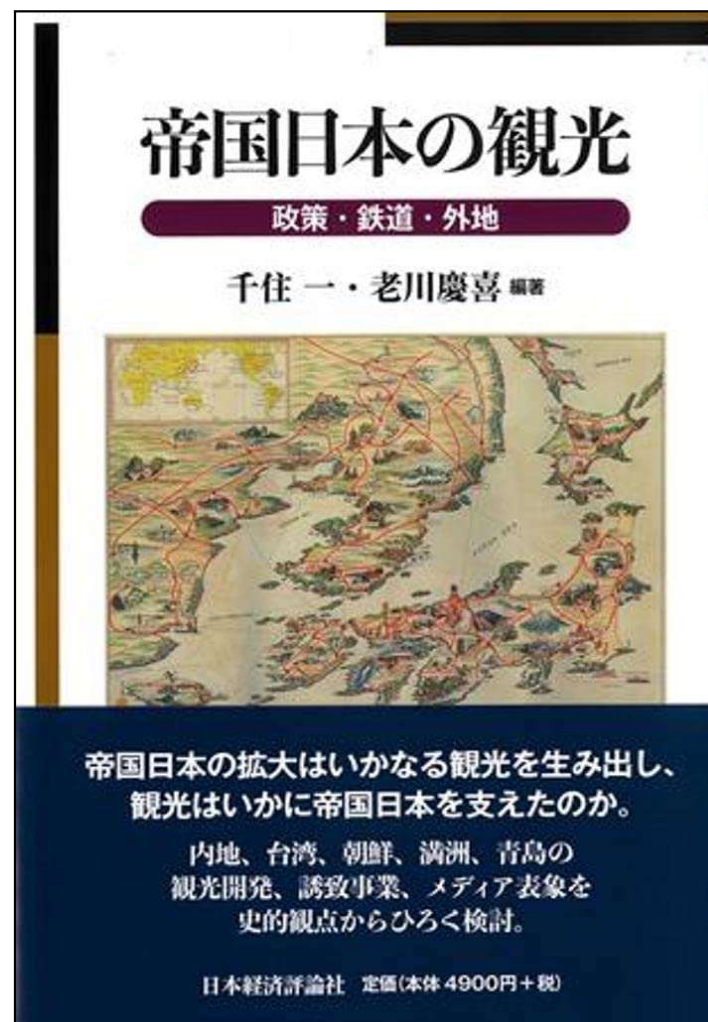
講師 駒澤大学グローバルメディアスタディーズ学部教授

高媛氏

■ 略 歴

高媛氏

1972年、中国北京市生まれ。1994年、吉林大学日本語学部卒業。1995年来日。2003年、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。2005年、博士号取得(社会情報学、東京大学)。現在、駒澤大学グローバル・メディア・スタディーズ学部教授。2011年4～9月、ハーバード大学ライシャワー日本研究所客員研究員。2020年4月～2021年3月、東京大学大学院情報学環・学際情報学府客員教授。専門は、歴史社会学・観光社会学。
単著『帝国と観光——「満洲」ツーリズムの近代』。共著『帝国日本の観光——政策・鉄道・外地』(日本経済評論社、2022)で第16回日本観光研究学会 学会賞・観光著作賞(学術)。



帝国と観光——「満洲」ツーリズムの近代,岩波書店 (2025/3/21)

帝国日本の観光——政策・鉄道・外地,日本経済評論社 (2022/3/1)

まず、この書影の話から・・・



満洲関連年表

1894～1895年 日清戦争←

1904～1905年 日露戦争。日本の勝利に伴い、ロシアから遼東半島南端にある関東州の租借権と、↓
東清鉄道南部支線（旅順・長春間）の利権などを譲受←

1906年 11月、南満洲鉄道株式会社（以下「満鉄」）設立、沿線の各都市で満鉄附属地を経営←

1907年 4月、満鉄、営業開始。本社を東京から大連に移転 ←

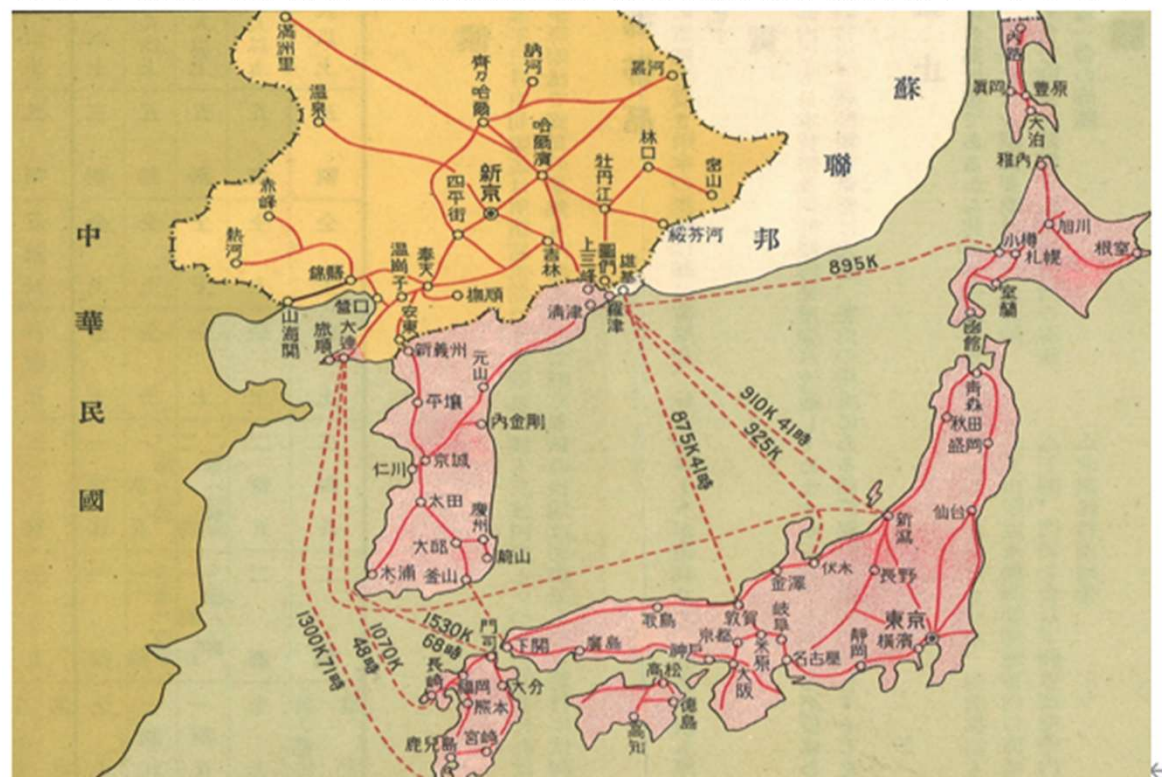
1931年 9月18日、奉天郊外の柳条湖で満洲事変勃発←

1932年 3月、「満洲国」建国宣言。首都に「長春」が選ばれ、「新京」と改称←

1937年 7月7日、北京郊外の盧溝橋で日中戦争勃発。└←

1945年 8月9日、ソ連、対日参戦し、満洲へ侵攻。8月15日、日本敗戦。8月19日、満洲国滅亡←

1935年頃の満洲地図（南満洲鉄道株式会社東京支社発行のリーフレット『満鮮の旅』より転載）←



『帝国と観光：「満洲」ツーリズムの近代』

(岩波書店、2025年3月)



目次

序章

第1章 戦地から旅行地へ

第2章 満洲観光ツアーの誕生

第3章 満洲修学旅行の誕生

第4章 満洲観光の「代理ホスト」
と観光空間の形成

第5章 〈憧れの的〉としての満洲

第6章 日本旅行会主催の
満洲観光ツアー

第7章 「楽土」を走る観光バス

第8章 観光・民俗・権力

第9章 ポストコロニアルな「再会」

終章

分析視座

- 観光を生み出す政治

観光を

自然発生的な現象として
ではなく、

→ 国家や資本が関与する
政治的出来事として捉える
視点

- 観光が生み出す政治

観光を、さまざまなポジシ
ョンナリティを持つ主体が
社会的実践を行う場として
捉え、

観光現場で生じた多様な
ヘゲモニーが不均衡に
せめぎあう協働の様相に
注目する視点

分析概念 「代理ホスト」

「代理ホスト」とは、本来の「ホスト」に取って代わり、**ゲストの受け入れを一手に担い**、ホスト社会の「観光資源」を帝国のまなざしで発見し、解釈し、そして価値付ける「**権威の潜在的代行者**」のことを指す。

その一方で、「代理ホスト」は、植民地における帝国のまなざしの**直接の体現者**でありながら、ゲストからはしばしば**帝国の周縁者**、さらには**ホストと一体化する存在**として見なされる、**両義的な立場を持つ**。

例：満鉄、JTB大連支部、在満県人会、
在満校友会……



日露戦争(1904～1905年)の翌年(1906)夏

左:東京・大阪朝日新聞主催の満韓巡遊船

右:陸軍省・文部省主催の満洲修学旅行団



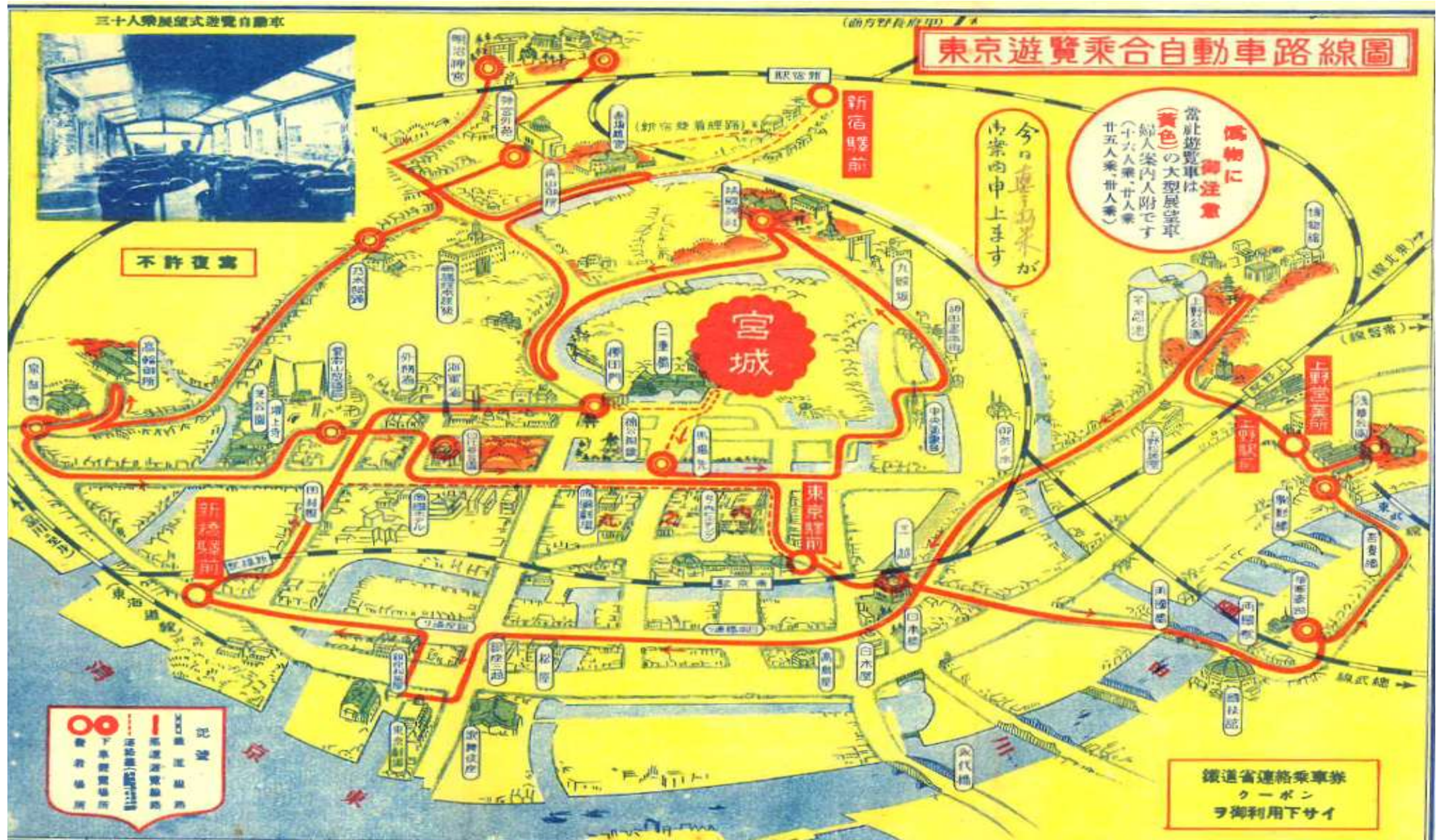
1906年夏、東京府立第三中学校満洲修学旅行団
撮影地は、大連常盤公園と思われる。

『満洲修学旅行記』、東京府立第三中学校学友会、1908年

1925年12月15日、日本初の定期観光バス
「東京遊覧乗合自動車」運行開始

[illegible]

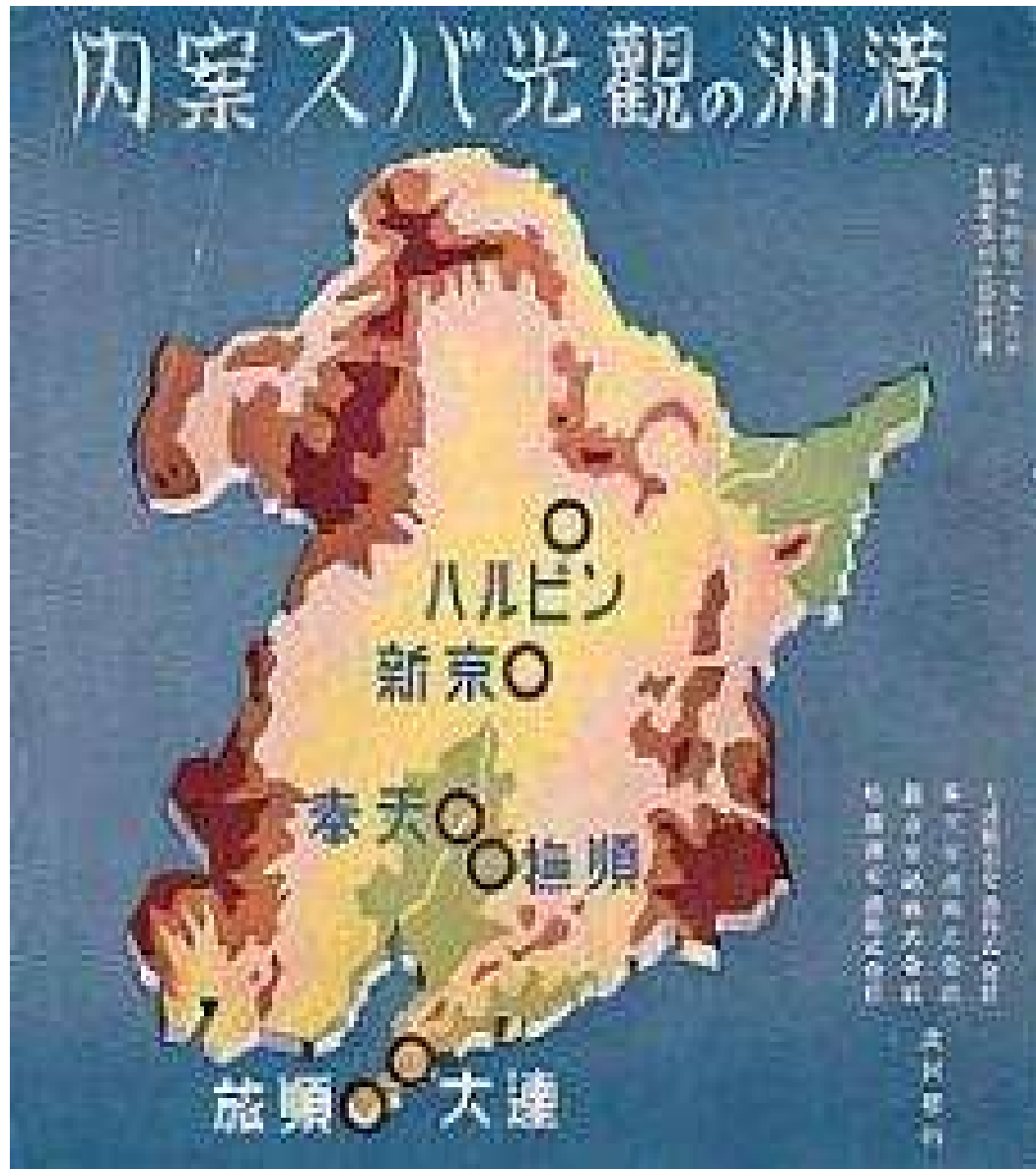
下車見物箇所:靖国神社、遊就館、明治神宮、乃木大
将邸、乃木神社、泉岳寺、赤穂義士の墓、愛宕山、日
比谷公園、三越(本店)、被服廠跡、浅草公園観音堂



加藤郁哉(満鉄旅客課)「満洲旅行について」 (1935年3月24日、日満中継放送原稿)

「下関を出発地点と致しまして朝鮮の釜山、京城、平壤を見、満洲に入りまして先づ清朝の古い歴史を持ち現に満洲商工業の中心地であり、満洲事変の発生地でもあります**奉天**、次に炭の都として、露天掘で世界に有名な**撫順**、次に国都として満洲国の澆刺たる心臓**新京**を見て**哈爾濱**に到着致します、北鉄接收後の同胞第一線の活動状況を具に視察致しまして、夜は皆様御存じの異国的情緒にもふれて一路南下致します。それから聖地**旅順**に詣でて日露熱血の戦場に先輩の霊を弔ひ、非常時日本に處する国民としての覚悟を一層強固にする、……斯くて満洲国の表玄関であります**大連**に満洲経済のバロメーターとして、今日の大をなした埠頭を視察、愈々満洲とも別れまして、大阪商船の定期船で下関に帰著するのであります。」

満洲国建国(1932年)後、満洲の六大都市に、相次いで観光バスが登場



満洲ノ都市ハ観光バスヲ

旅順

大連

奉天

撫順

新京

哈爾濱

旅順戦跡巡拝バス (案内人付)

時間	大連	旅順	戦跡	大連	大連
1日2回	8:30	9:30	10:30	11:30	12:30
料金	21.00	12.00	12.00	4.30	4.30
乗車券	1.00	2.00	2.30	5.30	6.30

大連観光バス (案内人付)

時間: 午前9時30分・午後4時30分
料金: 1日2回 (小人半額)
乗車券: 大連市営バス・大連市営バス
コース: 山の宮殿・忠義橋・大連橋・南門・大連市営バス・大連市営バス・大連市営バス

奉天遊覧バス

時間: 午前10時・午後4時30分
料金: 1日2回 (小人半額)
乗車券: 奉天市営バス・奉天市営バス
コース: 奉天市営バス・奉天市営バス・奉天市営バス

撫順見学バス (案内人付)

時間: 午前10時・午後4時30分
料金: 1日2回 (小人半額)
乗車券: 撫順市営バス・撫順市営バス
コース: 撫順市営バス・撫順市営バス・撫順市営バス

國都観光バス (案内人付)

時間: 午前9時・午後4時30分
料金: 1日2回 (小人半額)
乗車券: 新京市営バス・新京市営バス
コース: 新京市営バス・新京市営バス・新京市営バス

哈爾濱観光バス (案内人付)

時間: 午前9時・午後4時30分
料金: 1日2回 (小人半額)
乗車券: 哈爾濱市営バス・哈爾濱市営バス
コース: 哈爾濱市営バス・哈爾濱市営バス・哈爾濱市営バス

満洲観光バスの経営に満鉄が深く関与

1926年満鉄が設立した南満洲電気株式会社が、満洲国建国後の1934年に、所有していた電気供給事業を満洲電業株式会社に譲渡して交通事業のみとなり、さらに1936年に社名を大連都市交通株式会社と改めた。

同社は、関東州内の旅順、大連の観光バスを直接経営するだけでなく、新京や奉天の交通株式会社にも出資し、哈爾濱交通株式会社にも社員を派遣し経営の支援を行うなど、これら傍系会社を統制、援助する総元締的な存在である。

観光バスの運行期間、経営主体と指導機関

観光バス (運行期間)	経営主体	指導機関 (創立時期)
旅順 (1932～1944年)	南満洲電気株式会社（1926年設立、満鉄全額出資、1936年に大連都市交通株式会社と改称）	旅順観光協会 (1935年12月)
大連 (1937～1942年)	大連都市交通株式会社	大連観光協会 (1935年10月)
奉天 (1934～1943年)	①1934～1937年、満洲自動車運輸株式会社（1919年3月設立、通称黄バス。1937年3月、奉天交通株式会社に買収される） ②1937年～1943年、奉天交通株式会社（1937年3月に奉天市公署と大連都市交通株式会社が折半出資により設立、当初の商号は奉天交通股份有限公司であったが、同年6月、満洲国商法の改正により奉天交通株式会社と改称）	奉天観光協会 (1935年5月)
撫順 (1935～1943年)	①1935～1938年6月、山口タクシー（1923年7月設立、1938年6月、奉天交通株式会社に買収される） ②1938年7月～1943年、奉天交通株式会社	撫順観光協会 (1939年3月)
新京 (1936～1943年)	新京交通株式会社（1935年7月に新京特別市公署と大連都市交通株式会社が折半出資により設立。当初の商号は新京交通股份有限公司であったが、1937年6月、満洲国商法の改正により新京交通株式会社と改称）	新京観光協会 (1936年8月)
哈爾濱 (1934～1943年)	①1934年7月～1935年、国際運輸株式会社哈爾濱支店 ②1936年5月～1938年、哈爾濱特別市公署交通局 ③1938年7月～1943年、哈爾濱交通株式会社（哈爾濱特別市公署全額出資）	哈爾濱観光協会 (1937年3月)

観光バスの運行情報とコース内容

運行条件		コース内容	帝国の偉観			異国情緒	
						「満洲情緒」	
						陵墓、寺廟	「ロシア情緒」
旅順	1日3回、4時間、年中無休、1.50円		①白玉山（納骨祠1907年、表忠塔1909年）②戦利品陳列館（1906年）③東鶏冠山北堡壘④水師堂会見所⑤賈壘山（203高地、1912年8月、乃木希典が「賈壘山」と揮毫した記念碑が完成）	⑥博物館（1918年）			
大連	1日1回、6時間、3月1日～11月30日、1.80円	⑦大連神社（1909年）	⑧忠霊塔（1908年建立、1925年移築再建）⑨大仏（1926年、日露戦争で戦死した両軍兵士の遺骨を拾い集め粉末とし、コンクリートを混入して造られたもの）	⑩山の茶屋（展望台）⑪太広場⑫満洲資源館（1926年）⑬大連駅⑭星ヶ浦遊園（1909年、満鉄が開発した海岸遊園地）⑮油屋（豆油や豆粕の製造工場）⑯碧山荘（1911年、大連埠頭で荷役を行う中国人労働者の収容所）⑰埠頭		⑱露天市場（1921年）⑲油屋⑳碧山荘㉑埠頭	
奉天	全コース：1日1回、6時間、3月1日～11月30日、2.50円		⑳忠霊塔（1910年）㉑柳条湖（満洲事変発端の地。1938年に爆破記念碑が竣工）㉒北大営（満洲事変最初の激戦地。1938年に北大営戦跡記念碑が竣工）	㉓奉天駅②国立博物館（1935年）③鉄西（工業地）④南部住宅街	⑤北陵（清朝第二代皇帝太宗の陵墓）⑥天音廟		
	短コース1日2回、3.5時間、3月1日～11月30日、1.50円	⑦奉天神社（1915年）	⑧忠霊塔（1910年）⑨柳条湖⑩北大営	㉓奉天駅	⑤北陵	㉔城内（「満人街」）㉕同善堂（日清戦争で戦死した清国の将軍・左宝贵が生前の1881年に創設した社会救済施設）	
撫順	1日2回、2時間、3月1日～11月30日、1.20円	⑦撫順神社（1909年）	㉖殉難碑（殉難社員供養塔。近くに日露戦争関係の表忠碑あり）	㉗撫順駅②炭鉱事務所③大山坑④古城子露天掘		⑤大山坑⑥古城子露天掘	
新京	1日2回、3時間、年中無休（11月16日～2月末日は1日1回、2.5時間）、1.50円	⑦新京神社（1916年）	㉘忠霊塔（1934年）㉙富城子戦跡（満洲事変戦跡）㉚南滿戦跡（満洲事変戦跡）㉛建国廟（満洲国建国のために殉難した日満文武官などの霊を祭る宗廟、1936年起工、1940年完成）	㉜新京駅②日本橋通③旧国務院④宮廷府⑤大同広場⑥協和会館⑦安民広場⑧国務院⑨南新京⑩興安大路⑪大同大街⑫宝山（1937年10月に日本人が開業した百貨店）	⑤渣打寺（回々教寺院）		
哈爾濱	1日1回、3.5時間、5月1日～10月31日、1.50円		㉘忠霊塔（1936年）㉙志士之碑（日露戦争初期にロシア軍に銃殺された軍事探偵、横川省三や沖植介以下六名の志士を追悼した記念碑、1922年に完成）		⑤孔子廟（1926年）		①中央寺院②ロシア人墓地③松花江（スツガリー）

旅順：①名称「戦跡バス」

②男性の運転手がガイドを兼任

● コース

- ①白玉山(納骨祠、表忠塔)
- ②戦利品陳列館
- ③東鷄冠山北堡壘
- ④水師營会見所
- ⑤二〇三高地
- ⑥旅順博物館



- ・1日3回、4時間、1.50円
- ・1940年乗客者数68,808人

旅順戰跡觀光記念撮影

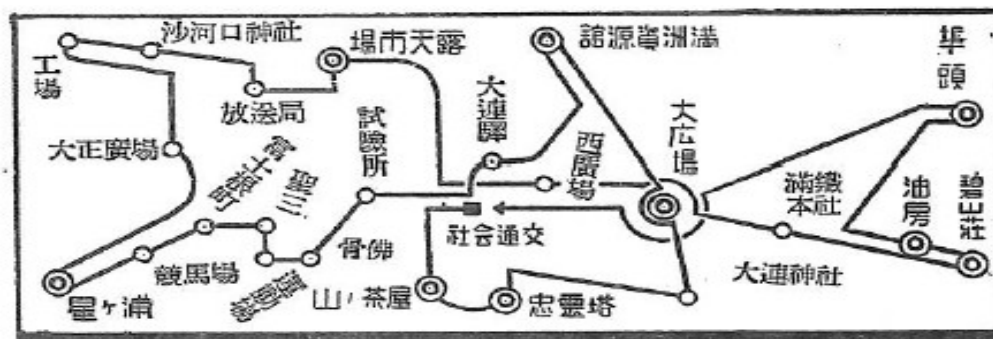


大連市内遊覧バス

● コース

- ①山の茶屋(展望台)
- ②忠霊塔
- ③大広場
- ④満洲資源館 ⑤大佛
- ⑥星ヶ浦(昼食)
- ⑦露天市場
- ⑧油房
- ⑨碧山荘 ⑩埠頭

- ・1日1回、5.5時間、1.80円
- ・1940年乗客者数6,941人



大連市内遊覧バス



大連都市交通株式會社 經營

電話代表 2-3181

日本人と中国人の生活水準の落差を強調

「皆様。午前中は近代的文化都市としての大連、主に日本人の施設経営、竝にその発展状態をお眼にかけましたが、これから御案内申し上げます所は、国際都市としての大連、こゝに居住する満人の生活状態であります。今迄と違って極めて汚い、むさくるしい場所ばかりでありますが、日本人と比べて如何に生活程度が低く、無智な階級が多いかといふことを御覧になるのも、興味深いものがあるかと存じます。」



奉天観光バス：全と短の2コース

● 全コース

①奉天駅②忠霊塔③国立博物館④同善堂⑤北陵⑥北塔⑦柳条湖⑧北大宮⑨城内⑩奉天神社⑪鉄西⑫三軒家⑬大越中佐自刃ノ地⑭于洪屯⑮奉天駅

● 短コース

①奉天駅②忠霊塔③同善堂④北陵⑤北塔⑥柳条湖⑦北大宮⑧城内⑨奉天神社⑩奉天駅

- ・全コース：1日1回、6時間、2.50円
- ・短コース：1日4回、3時間、1.50円
- ・1940年乗客者数62,535人



撫順遊覧バス

- コース

- ① 撫順駅
- ② 炭坑事務所
- ③ 古城子露天掘
- ④ 大山坑
- ⑤ 撫順神社
- ⑥ 誉ヶ丘
- ⑦ 撫順駅

- ・ 1日2回、3時間、1.50円
- ・ 1940年乗客者数25,347人

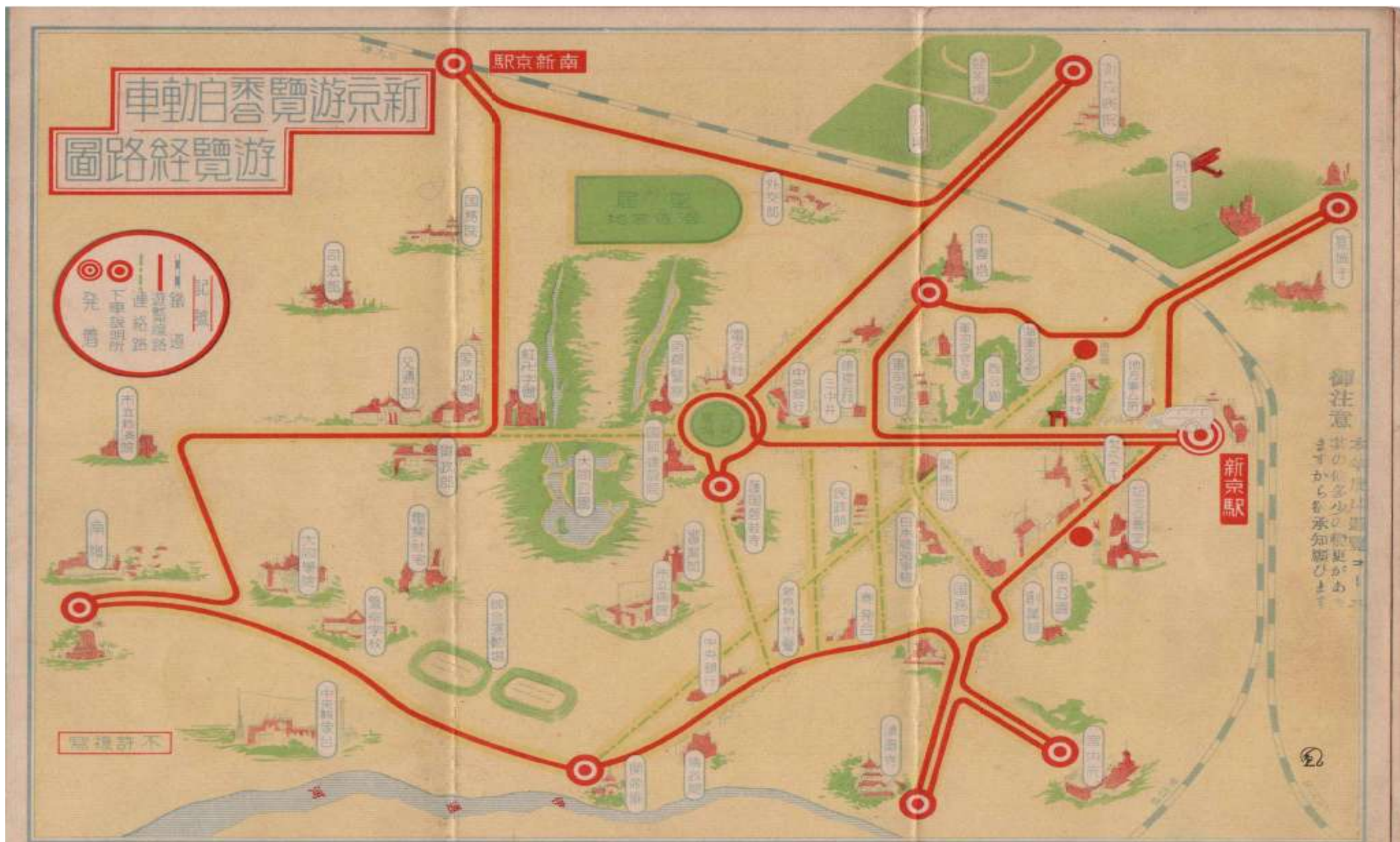


新京遊覧乗合自動車のパンフレットの表面

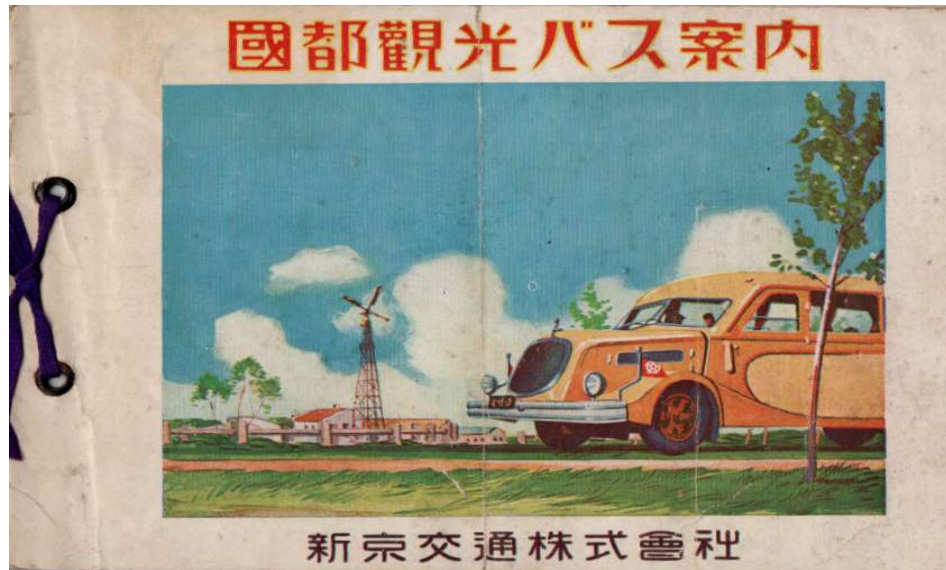
東京遊覧乗合自動車のパンフレットの表面と酷似



新京遊覧乗合自動車のパンフレットの裏面
東京遊覧乗合自動車のパンフレットの裏面と酷似



新京観光バス:「東洋一の高級観光車」 3万円を投じて購入したという、ドイツ製 クルップ・ユンカーズのディーゼル車



「皆様御覧下さい。此処彼処に見えます墓標は此の戦闘に於て異郷の土となりました四十三勇士地上最期の場所で御座います。海行かば水づく屍、山行かば草生す屍、大君の御為め祖国の為め捧げられました貴き肉体は、御覧の通り白い墓標と変つたので御座いますが、その誠忠は護国の神と化し、英魂永久に此地に鎮つて、吾が生命線の護りとなつて居られることで御座いませう。」(南嶺戦蹟での解説文)

新京観光バス：日本語と中国語の2コース

● 日本語コース

- ① 新京神社
- ② 忠霊塔
- ③ 寛城子戦蹟
- ④ 宮廷府
- ⑤ 協和会
- ⑥ 南嶺戦蹟
- ⑦ 三中井又は宝山(デパート)

・1日2回、3時間、2円

・1940年乗客者数43,618人

● 中国語コース(1940年～)

- ① 新京神社
- ② 忠霊塔
- ③ 宮廷府
- ④ 協和会
- ⑤ 衛生技術廠
- ⑥ 放送局
- ⑦ 宝山(デパート)

・1日2回、2.5時間、1.50円

・1940年乗客者数1,070人

哈爾濱觀光バス： 白系ロシア人ガイドガールも同乗

● コース

- ①哈爾濱駅
- ②哈爾濱神社③忠靈塔
- ④志士・烈士ノ碑（横川省三、沖禎介
など六志士、小林環、向後三四郎
二烈士の記念碑）
- ⑤博物館⑥孔子廟
- ⑦ロシア人墓地
- ⑧松花江太陽島（観光艇廻覧）
- ⑨観光亭（バス乗換）⑩哈爾濱駅

- ・1日2回、4時間、2.50円
- ・1940年乗客者数49,974人

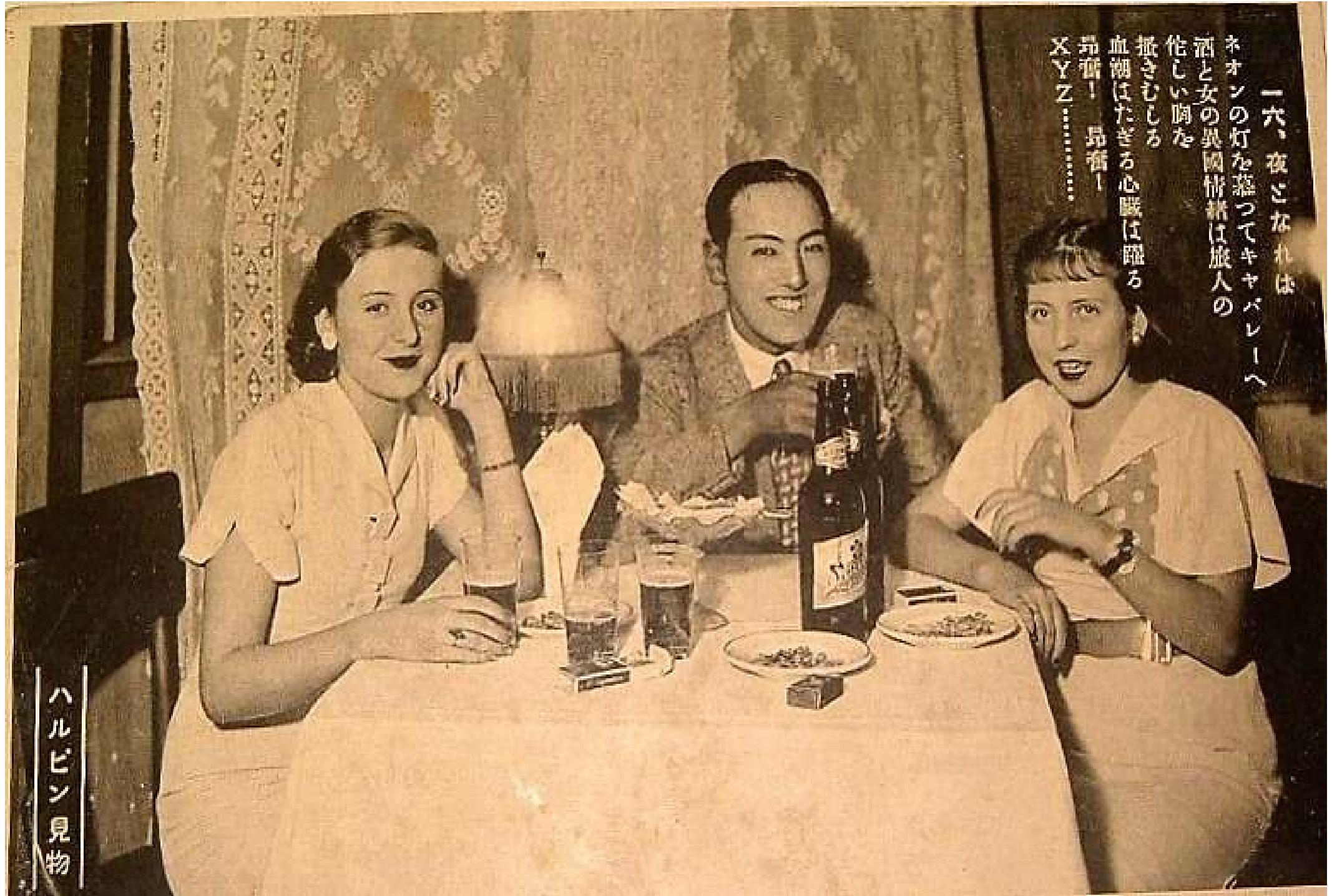


白系ロシア人のガイドガールは達者な 日本語で「ロシア人墓地」について説明

「ロシア人はギリシャ正教を信奉しています。日本人の行くところに神社がありますように、ロシア人の住むところには必ず教会がございます。大正六年（一九一七年）にロシア革命が起きて、私たちの不幸が訪れました。喜びにつけ悲しみにつけ、私たちは教会に集まってお祈りを捧げるのでございます。」



夜の哈爾濱（絵葉書「ハルピン見物」）



一六、夜となれば
ネオンの灯を慕つてキャバレーへ
酒と女の異國情緒は旅人の
佐しい胸を
揺さむしる
血潮はたぎる心臓は躍る
昂奮！ 昂奮！
XYZ……………

ハルピン見物

奉天交通株式会社観光係長・酒井昇が語る 「満洲の観光バスの使命」 1940年

「満洲の観光バスは、内地のそののやうに景勝地や旧蹟だけを見せて、満足してゐてはならないと思ふ。観光バスであつてみれば、景勝地や旧蹟を案内しないわけにはいくまいけれども、満洲の歴史を繙き、伝説を物語るとともに日清、日露の大戦争や、満洲事変の戦跡に案内して、兵隊さん達の尊い犠牲を、如実に説明しなければならない。そして、満洲建国の本当の意義を説きながら、新興にみなぎる街々を案内してこそ、満洲の観光バスの使命が達しられると思ふ。／これは、独り満洲ばかりでは無くて、朝鮮でも、亦北支、中支、南支の観光バスでも同じだが、是からの観光バスは、大都会とか、或は、目だけを楽しませる所を運ばずに、たとへ僻村であつても激戦のやうな所には、多少の犠牲をはらつても、観光バスを動かしたいものである。」

「樂土」を走る観光バス



・満洲国に登場した、**短時間で経済的に**見物できる、都市観光のスタイル



・満鉄傘下の「大連都市交通株式会社」が、満洲各地の観光バスの経営に深く関与



・日本内地の観光バスとは異なる満洲観光バスの国策的使命

再び、この書影の話に戻ると・・・



9月21日(日)出版記念シンポジウム開催

登壇者: 吉見俊哉氏、千住一氏、早川タダノリ氏

『帝国と観光』 出版記念シンポジウム

2025年3月、高媛著『帝国と観光：「満洲」ツーリズムの近代』（岩波書店）が刊行された。本書は、1906年から2000年代半ばにかけて、およそ一世紀にわたる満洲観光の歴史をたどりながら、その華やかな舞台裏にひそむ欲望、記憶、および政治的意図に光を当てた意欲作である。

本シンポジウムでは、著者であり本学教員でもある高媛氏に加え、メディア論・都市論の大家である吉見俊哉氏、観光史研究を牽引してきた千住一氏、プロパガンダ論で知られる早川タダノリ氏を迎え、本書の問題提起を出発点に、帝国と観光の関係について多角的に議論を展開する。



主催：駒澤大学大学院
グローバル・メディア研究科
お問い合わせ：250921shuppan@gmail.com

プログラム

- 13:30～13:35 | 開会の辞
- 13:35～14:15 | 講演：「『帝国と観光』を読む」
吉見俊哉（國學院大学教授／東京大学名誉教授）
- 14:15～14:45 | 著者によるリブライ
高媛（駒澤大学教授）
- 15:00～16:00 | パネル・ディスカッション
パネル：吉見俊哉氏、千住一（立教大学教授）
早川タダノリ（編集者）、高媛氏
司会進行：芝崎厚士（駒澤大学教授）
- 16:00～16:55 | フロアとの質疑応答
- 16:55～17:00 | 閉会の辞

18:00～20:00 | 懇親会（事前申込制、懇親会費5,000円）

場所・開催形式・参加方法

- 場所：駒澤大学 種月館307教場
- 開催形式：対面
- 参加方法：事前申込制・先着250名
右のQRコードより



日時 2025年9月21日(日) 13:30～17:00 入場無料・要事前申込